

この園に生かされて学んだこと

早川聡子

(幼稚園教諭)

私は横浜市港南区にある幼稚園で働いています。閑静な住宅地の中にあり、門を抜けると、小さいけれど森のような園庭があります。

実習園としてこの園に出会いました。印象的だったことは、照明が柔らかく自然の光を大切にしていたこと、先生たちが子どもに対してとても穏やかな言葉掛けをしていることでした。子ども一人ひとりを大切にする温かい雰囲気にかかれ、ぜひこの園の先生になりたいと願い、就職が決まりました。

1、2年目はクラス補助で、主に支援が必要な子を担当していました。言葉のやりとり

がなかったもので、どのように接してよいかわかりませんでした。とにかく、この子は何に興味があるのだろうか？ と、彼の後をついて歩き、彼の目線に合わせて過ごす中で、ちょっとした表情から気持ちが見えてくることがうれしくてたまりませんでした。言葉だけに頼らず、表情やしぐさから気持ちをくみ取って向きあうことの大切さを学びました。

4年目に年少クラスを担当しました。このクラスは、個性豊かで、活発な子が多くいました。毎日のように、たいたい、かみついたり、けんかが起こり、保護者の方に謝って

早川聡子（はやかわ さとこ）
港南台幼稚園教諭。
2019年度は年長クラスの担任をしています。

ばかりでした。一緒にクラスを担当していた先輩の先生が「大丈夫、この試練は必ず乗り越えられるから」と、繰り返し励ましてくれ、3学期になるとようやく子どもたちが落ち着き、遊びが広がっていきました。そのまま持ち上がりで年中・年長を担当しました。楽しさもありませんでしたが、失敗も多く、徐々に自分の保育に自信がもてなくなっていきました。「自分は保育者に向いていないのではないか」という気持ちが大きくなり、結婚を機に退職しました。

その後は接客の仕事に就きました。職種は違うけれど、やっぱり私は人とかわるることが好きなんだと再確認した時期でもありました。しばらくして、娘が生まれました。私は、今までたくさんのお母さんに出会わせてもらったのだから、その経験を子育てに活かしたい！と意気込んでいました。あのお母さん

はお料理上手だった、あのお母さんはいつも優しくてすてきだった……と、勝手に「すてきなお母さん像」をつくってしまいました。もちろん、そんなことはうまくいかず、全然寝てくれない、泣いてばかりの娘にどうしたらよいかわからず途方に暮れたこともありました。「魔の2歳児」真つただ中のときには、自分がこんなにイライラしたり怒ったりする人間だったなんて……と、自分に自信がもてなくなっていました。

そんな中、あつという間に娘が未就園児クラスに入る年齢になり、幼稚園探しが始まりました。近隣の園を見て回っても、思い浮かぶのは、自分が勤めていた園の、あの森のような園庭、思い切り遊べる砂場、温かい先生たちの姿でした。しかし、勤めていた園にわが子を入園させることで、いろいろな面で迷惑をかけてしまうのではないかと、なかなか

決断できずにいました。まだ園に勤めていた先生に相談すると、「子どもにとって、一番良いと思つた園を選んでね。いろいろな心配は解決できるから、ぜひおいで」と言ってくれました。その言葉の後押しもあり、入園を決めたのでした。

娘が入園し、持ち帰ってきた泥んこの洋服を見て、思い切つて遊べるようになったことをうれしく思いました。何よりもうれしかったことは、担任の先生が娘の様子を楽しそうに話してくれることでした。「今日、こんなことがあつたんですよ！ 面白いですね、こんなことが育つていますね」と話を聞くたびに、まるで母である自分も大切にされているような、満たされた気持ちになりました。それと同時に、家族以外に娘を見守つてくれる人があることは、こんなにも心強いことなのだと感じました。自分自身が保護者の立場になつたことで、あらためて保護者の気持ちを知る

ことがたくさんありました。

娘が年中になる頃、園のおかげで、少しずつ心にゆとりが出てきて、子育てを楽しめるようになってきました。そして、先生方の姿を見ていて、「先生という仕事は大変だけれど、こんなにも人を支える仕事なんだ」と強く感じるようになりました。自信は全くないけれど、もう一度、保育の仕事にチャレンジしてみたいと思うようになりました。しかし、娘にあまり負担をかけずに、短時間から始められるような保育の仕事はなかなか見つかりませんでした。そんな中、娘の通う園から「そろそろ復帰しない？ 未就園児クラスなら短い時間から始められるから、考えてみて」と声をかけていただいたのです。まさかこの園に復帰することなど考えてもみなかったので、悩みに悩みました。先生方にとって、保護者である私が一緒に働くことはやりにくいのではないか、自分自身も親子関係を割り切つて

勤められるのだろうか……と、さまざまな気持ちで駆け巡りました。けれど、もう一度この園で保育ができたなら、保育者としての自信を取り戻せるかもしれないと思い、復帰させていただくことを決意しました。ありがたいことに先生方や娘も、私がいまだ一度保育者になることを応援してくれました。

そして、先輩の先生と未就園児クラスを担当することになりました。先輩と一緒に保育をする中でたくさんさんの発見や学びがありました。子どもとのかかわりでどのように対応したらよいのかと悩んだとき、先輩はどんな対応をしているのかとよく見ていると……言葉だけで伝えるのではなく、一人ひとりの気持ちを考え、その子にとってわかりやすい対応（視覚からの支援やわかりやすく短い言葉掛け）を丁寧に行っていることに気がつきました。そして保育後、先輩と一日の振り返りをする

中で「ああそうか……あの時あの子はこう感じていたのかな？」と気づき、「次はこんな遊びを用意してみましよう」と話しながら、明日の保育が楽しみになっていきました。先輩と保育を語りあうことで、年齢ごとの発達を理解し、発達に合わせた対応をすることの大切さを学びました。何よりも、自分自身が保育の面白さを感じるようになるようになったことが大きな変化でした。

娘が卒園し、復帰して6年目の今も日々悩むことがあります。やっぱり保育って面白い！と感じています。この園で、母としても、保育者としても、たくさんの方に支えていただいたおかげで、「失敗しても、大丈夫。そこから学び、進んでいけばよいのだから」と思えるようになりました。これからも保育を楽しみ、学び続けていくことを大切にしたいと思っています。